令和５年度大分県立特別支援学校第三者評価【評価書】

学校名	大分県立竹田支援学校

重点項目	評価項目	評価の観点	評　　価
学校の組織運営	1　校長のリーダーシップ	＊社会のニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンの設定 ＊学校目標、学校運営計画の適切な設定と教職員の共通理解 ＊的確・適切なリーダーシップの発揮、教職員からの信頼	校長が意欲を持ってリーダーシップを発揮しており、教育課題を踏まえ、時代の変化に適合したビジョンと教育カリキュラムを設定している。学校教育目標が実践レベルの指導原理となるよう、適切かつ具体的な言葉で解説されており、異動して間もない教員や新任の教員が多い中、一丸となって取り組んでいた。
	2　組織的運営・責任体制	＊教育目標、学校運営計画との一致 ＊組織的な運営・責任体制の整備、校務分掌の機能 ＊幼・小・中・高の一貫性のある指導体制の整備	新任のミドルリーダーが多いにも関らずよく理解をして、計画立案を行っており、高等部での職業指導にも情報共有されて生かされていた。
	3　服務監督・危機管理体制	＊内規、危機管理マニュアル等の適切な整備 ＊事件・事故発生時の迅速で適切な対応 ＊法令に則った医療的ケア実施体制の整備	防災訓練や危機管理マニュアル、医療的ケアのマニュアルが整備されていた。ヒヤリハット事例も確認できたが、報告が出にくいため、様式の見直し等が期待される。
	4　家庭・地域との連携、情報提供	＊幼児児童生徒及び保護者の満足度や要望を把握する取組 ＊学校ホームページの活用、学校便りの発行等による情報の伝達 ・公開の取組	学校の取組に対する保護者アンケートが実施されており、回収率の高さから保護者との連携が確認できた。地域の伝統文化（神楽）に挑戦したり、地域の農家へ行き話を聞いたりするなど、地域との活発な連携も実施していた。
	5　センター的機能	＊小・中学校等の要請に応じた巡回相談等への積極的取組 ＊特別支援教育のセンターとしての特色ある取組 ＊組織的に取り組む校内体制の整備	地域の特別支援教育のセンターとして校内体制が整備されている。巡回相談を積極的に行っており、地域の特別支援の核となっていた。
学習指導	1　授業	＊障がいの状態や特性、発達の段階等に応じた指導 ＊一人一人の指導目標・方法の共通理解に基づいた実践 ＊学習効果を高めるための外部専門家との連携等の工夫 ＊幼児児童生徒の自主的・主体的な学習への取組	学習指導要領改訂に応じたカリ・マネの推進を図るため機動力のあるPTを設置、授業の「評価・改善シート」の活用などの取組がなされていた。経験の浅い教員の支援が積極的に行われており、高等部ではタブレット型端末の有効活用など生徒の自主的な学びを引き出す工夫の効果が見られた。
	2　指導、支援のための計画の作成と活用	＊チェックリスト等に基づく実態把握の実施 ＊本人・保護者のニーズの把握、ＰＤＣＡサイクルによる指導改善 ＊保護者等と連携した教育支援計画の作成、長期的視点の支援	個別の指導計画や具体的な手だてシートの改善が行われ、より具体的な指導ができるようになっている。生徒の話から中・高のつながりが感じられ、年齢と共に拡大する世界に対応できる「生きる力」の涵養を見据えた教育実践を志向している。
	3　授業研究・授業改善	＊社会のニーズや学校の教育課題等に基づく学校研究への取組 ＊計画的な授業研究の実施等による授業改善への取組 ＊専門性向上のための積極的取組、専門性の高い授業実践	「きめ細かい指導」「主体的に」という目標のもとに、段階別に研修グループをつくり授業を行う取組ができている。互見授業の活用やミドルリーダーによる研修など、若手職員育成のための研修を積極的に行っていることは評価できる。
職業教育及び進路指導	1　進路指導	＊組織的なキャリア教育（進路指導）への取組 ＊本人・保護者の進路希望の把握、きめ細かい進路指導 ＊定期的な職場訪問等による状況把握	中学部から職業についての科目があり、自覚を持ち自分に合った職業を考えられるようにカリキュラムを組み立てていた。縦のつながりの強い学校特性を生かして、卒業生による支援を効果的に取り入れている。
	2　就業体験の機会の確保	＊福祉・労働施策や関係機関の事業等の情報収集の取組 ＊実習先、就労先等の開拓に関する積極的取組 ＊作業学習等の学習の工夫・改善への取組 ＊地域や産業界等の協力等による就業体験の充実	地元企業や作業所との連携をして、情報収集に努めていた。職場体験により、生徒が将来を考えられるようにカリキュラムを工夫しており、就労に向け生徒が主体的に取り組むための工夫が行われている。
	3　職場開拓	＊地域の企業、福祉・労働の関係機関等との密接な連携 ＊教職員・保護者が一丸となった職場開拓	地域の企業や福祉施設、福祉・労働の関係機関等との連携を図っている。保護者との連携も確認ができた。
豊かな心・健やかな体の育成	1　社会自立に向けた教育	＊互いの良さを認め合い、豊かな人間関係を形成できる幼児児童生徒を育成 ＊卒業後に必要とされる力を踏まえ、各学部段階において適切に指導	教育課程の教科化が行われても、将来の社会生活に必要な力を育むという視点を保って教育内容に工夫をしている。児童生徒の縦のつながりが強いことは竹田支援の強みである。
	2　生徒指導	＊幼児児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携 ＊障がいの状態等を共通理解し、組織的な生徒指導の取組	小規模校の強みを生かし、全教職員が特別な配慮の必要な子どもだけでなく全児童生徒を理解するよう努めている。
	3　教育相談	＊専門的な立場のスクールカウンセラー等との連携 ＊教育相談等に関する知識習得や技能向上に向けた取組	教育相談に生かせる知識習得のための研修を実施している。
	4　特別活動	＊学校、地域の実態等に即した学校行事、児童生徒会活動等の取組 ＊交流及び共同学習への積極的取組	近隣の小中高と積極的に交流及び共同学習を行っている。地域と水災害避難訓練の合同実施を模索しており、今後に期待する。
	5　安全管理・医療的ケア	＊教職員間で迅速に情報共有する体制が確立 ＊教職員・幼児児童生徒が安全に行動できる取組や環境作り ＊校内の医療的ケア実施体制が整備	医療的ケア実施体制が整備されているとともに、緊急時対応マニュアルも整えられている。
全般	障がいの状態や発達の段階等に応じた適切な配慮	＊教育活動全般にわたる、障がいの状態や発達の段階等に応じた 適切な配慮	小規模校であり、児童生徒に対して障がいの状態や発達の段階等に応じたきめ細かい指導が行われていた。 教員の経験年数や職位が異なる中で担任同士のコミュニケーションと連携がとれていた。

総合評価	校長のリーダーシップのもと、ミドルリーダー、教員との連携が取れ、縦・横の連携で布のような構成でお互いを補完できる組織化・仕組み化をしていた。小規模校であるが、縦・横と教員同士の連携を大切に、教育や業務に抜けがないように努めており、次年度以降、取組後の成果に期待したい。授業では、若手教員が育成され、児童生徒の成長が感じられる充実した教育活動が行われていた。今後は、小規模校の特性を生かし、学部による縦割りにとらわれない教育活動を充実させ、児童生徒の自主性をさらに引き出すような取組を期待したい。

校長コメント	今回評価に向けた資料をまとめる過程で、これまで本校が取り組んできたことを再整理し、校内で正確な情報の共有をすることができたことは大きな収穫であった。その結果、本校が作成してきたフォーマットの改善や児童生徒の自主性を引き出す指導、教育環境の改善など本校の取組をさらにブラッシュアップさせるための課題を具体的にご指摘いただくことができたと思っている。今後は課題解決に向けた具体的な取組を次年度の学校評価実施計画に落とし込み、形になり始めている組織化・仕組化を実働させながら、小規模校の特性を活かしたよりよい学校づくりに取り組んでいきたい。